

2009. 5. 27

子どもの思いに気付いてあげて

徳島大大学院ヘルスパイオサイエンス研究部

二宮教授が本出版



「子どもと信頼関係を築くためには、気持ちを聴くことが大切」と話す二宮教授—徳島大学病院

子どもに学ぶ(1)

徳島大学病院の「子ども科診療室」で養育を続ける、同大大学院ヘルスパイオサイエンス研究部の二宮俊夫教授が、「子どもに学ぶ(1)」子どもの作品からのメッセージ(近代文芸社)を出版した。詩や作文などに隠された子どもの思いに気づき、耳を傾けることの大切さを語る。二宮教授は、子どもとのコミュニケーションの取り方を聞いた。

増加する一方の子ども心の問題。二宮教授は「大人への信頼をなくした姿」と指摘する。子どもが書いた何気ない文章や絵画の中にこそ、本心の気持ちも求まる。大人はもっと、子どもの言動や作品に敏感にならなければならない。それが子どもに信頼されるための近道。小児科医として、カウンセリングを通じて多くの子どもと接してきた二宮教授。本書は、診療室を

訪れた一人の女の子の母親とのカンゼンソングのやり取りを基に構成されている。小学生のときに学校へ行けなくなっ

詩や作文に本音隠れる

二宮教授は、大人の意見や理屈を押し付けるのは禁物と指摘する。「ど、四六判、一六〇、千二百六十円。シリーズ化する方針で、二作目は、被らないとも。不登校などの虐待児とのやりとりなど子どもに対して「何とかを収録し、来年にも出版して学校に行かせよう」とする予定だ。

るものなんだが、いいもんだ。場所にはめられた詩などの作品からは、教師や親、友人に対して抱いた思いと、女の子自身が、その思いに隠美に向き合う様子が分かる。「子どもは、自分の気持ちを分かち合ってもらったと実感できて初めて行動に移ることができる。原因を探ったり、急いで答えを求めたりするのはなく、子どもの話を聴くことに徹して。そうすれば、子どもは言葉の端々で本音を語り出す」。二宮教授は、大人の意見や理屈を押し付けるのは禁物と指摘する。「ど、四六判、一六〇、千二百六十円。シリーズ化する方針で、二作目は、被らないとも。不登校などの虐待児とのやりとりなど子どもに対して「何とかを収録し、来年にも出版して学校に行かせよう」とする予定だ。



二宮教授が出版した「子どもに学ぶ(1)」